

とうわ 藤和けんこう通信



2016年9月号 VOL.71

敬老の日

発行元：藤和マッサージ（訪問マッサージ・はりきゅう）
相模原院042-855-0420 町田院042-851-7528 海老名院046-204-5482

9/19敬老の日

社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日



593年の9月15日に聖徳太子が大阪の四天王寺に「非田院〔ひでんいん〕」を設立したと言われています。非田院は、身寄りのない老人を收容する、今でいう老人ホームのような施設でした。敬老の日はこの「非田院」の設立にちなむと考えられています。また「敬老の日」という名称に落ち着くまでには長い期間を要しました。1951年に中央福祉協議会が「としよりの日」と決めましたが、この名称に各地で議論が occurred。それを受け、1963年に老人福祉法の制定に伴って「老人の日」に改正されましたが、この名称もまた、語呂が悪いなどの理由から、1965年に現在の「敬老の日」となりました。（『日本いろは辞典』より）



平均寿命-今年のWHO統計でも世界首位！

20年以上前から長寿世界一の座を守り続けている日本って凄いですね！

今年から謎の祝日
山の日
(8月11日)

今年からできた、謎の祝日『山の日』。これは海の日に対抗して作られたのでしょうか…。もともと『海の日』も謎の祝日ですが、今後さらに祝日が増えていくのでしょうか。一つ祝日を新設するなら、一つ祝日を削って欲しいです。あまり意味の良く分からない祝日は無用なので止めてほしいものです…(須藤)



馬場悦子 野々村颯 佐藤文子 石井武司 若本大輔 大野佑介 長谷川佳汰 代永涼子 栗原賢 小池順一 村山朋洋 細田篤矢 小形沙織 吉野智子
須藤 新 長谷川加代 佐藤浩嗣 坂垣 鋭司 村山直樹 小木野貴史 近藤マチ子 岩本友保 宮田大輔 中村匡志 矢部恵 谷田美幸 渡邊真之 添田真理子

何事も思いやりの持って対応します！

けんこう豆知識とくとくクイズ

問題① WHOが発表した世界の平均寿命。女性では日本人女性が世界首位の86歳でしたが、男性ではスイス人男性が世界首位である。○か×??

問題② 鉄の取りすぎで、貧血になることがある。○か×??



問題③ 日本の都道府県の中で、最も温泉の源泉数が多い場所は次のうちどこでしょう?
A.長野県 B.大分県 C.鹿児島県



問題④ 水虫菌は、24時間以内に洗い落とせば感染しにくい。○か×??

問題① 回答 ○

平均寿命、男性ではスイス人男性が81.3歳で世界首位。日本人男性は80.5歳で世界5位となっています。男女合わせた平均寿命では、日本は統計を遡ることができる20年以上前から長寿世界の座を守り続けている

問題② 回答 ○

「貧血＝鉄不足」と考えがち。貧血にはいろいろな種類があるのです。赤血球の直接の材料は、鉄とたんぱく質ですが、赤血球を作る過程で必要になる亜鉛や銅が不足しても、貧血が起きます。鉄ばかりたくさん摂ると、銅や亜鉛の吸収が邪魔され、不足状態が起こることも。

問題③ 回答 B大分県

源泉数(環境省のHPより)

1位:大分県=4,788ヶ所

2位:鹿児島県=2,824ヶ所

3位:北海道=2,304ヶ所

4位:静岡県=2,283ヶ所

5位:熊本県=1,388ヶ所

問題④ 回答 ○

水虫の原因菌である白癬菌が皮膚に付いてから皮膚内に進入するまでには、24時間ほどかかる。つまり毎日足を洗って清潔に保てば、感染はかなり防げるはず。万が一、人から菌をもらってしまった、日々のケアでブロックしましょう!

真夏の太陽ともしばしお別れですね～夏の思い出いろいろ～

中・高校時代。関東・全国を目指して走っていた部活動～今はもうあんなに走れないなあ～…(長谷川佳汰)

学生の頃、湘南の海を散策したこと。(岩本友保)

川の水でキンキンに冷えたトマトとスイカ。家の前にちらちら飛んだ蛍。うーん、また田舎暮らしがしたい!(吉野智子)

高校時代のサッカー部の合宿を思い出すだけで身震いが、いやあーあれぞ地獄でした。(中村匡志)

小学生の頃から夏休みの宿題がたまってしまい、後半になって必死で自由研究をしていたのが思い出です。(細田篤矢)

夏フェスで飲んだビールのうまさ。かき氷。OS-1。(栗原賢)

フジロックフェスにチケットなしで行って、裏山で見つかって逃げる時に川に2回落ちたこと～。(佐藤浩嗣)

花火が好きなのですが最近行けていません。(小形彩織)



保健医療費 日本3位…14年度、GDP比、介護費増え

(2016年8月29日毎日新聞)

先進35カ国が加盟する経済協力開発機構(OECD)のデータで、日本の国内総生産(GDP)に占める保健医療支出の割合が11%を超え、加盟国中3位になったことが分かった。2014年度から計算基準が変わり、介護保険サービスの費用が幅広く含まれたため以前より数値が大きくなり、順位も上がった。医療・介護費は高齢化や高額薬剤の登場などで今後も増加が予想され、対GDP比の水準はさらに上がっていく可能性がある。

保健医療支出は公費や保険給付、自己負担の合計。新基準によると、日本は14年度に55兆3511億円で、対GDP比11.4%。米国、スイスに次ぐ3位で、スウェーデンやフランス、ドイツを上回った。15年度もOECDによる推計で11.2%と3位だった。

以前の基準で計算されていた13年度は10.2%で8位だったため、大きく順位を上げた形だ。

ただ、新基準でも1人当たりの費用は14年度約43万5000円で、順位は15位に下がる。日本のデータ提出機関である医療経済研究機構の担当者は「日本は高齢化が進んでいるため、対GDP比では順位が高くなるが、1人当たり費用を見ると一定の抑制が働いているのではないかとしている。(共同)

年金運用損、将来世代にツケ? 「損失処理の仕組みを」

(2016年8月26日朝日新聞)

公的年金積立金の運用損が膨らんでいる。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用基準を見直しからの通算成績は、初めて赤字に転落した。想定以上の赤字が出れば将来世代へ負担を先送りすることになりかねず、専門家は新たな仕組みづくりを求めている。「今回のような短期的な運用の評価損は、年金額に影響しません」。GPIFの担当者は26日の記者会見で明言した。年金の支払いに必要な年間約50兆円の財源のうちGPIFの運用で賄うのは10%未満。運用する積立金約130兆円のうち国債20兆円分の償還金だけで、当面の財源を捻出できる見通しだという。現在の運用基準は「見直す必要性はない」と強調した。

ただ、株式の比率を50%に倍増して以降の運用成績はマイナスに。この傾向が続くなら、将来的な年金額への影響は否定できない。

薬の誤用、6年間で24件 見た目が類似、医師ら混同

(2016年8月29日朝日新聞)

見た目が似た薬を医師や薬剤師らが誤って使ったケースが2010年1月から今年3月までに計24件あったとする報告書を、日本医療機能評価機構がまとめた。機構は「名称をきちんと確認することが必要だ」と注意を呼びかけている。全国約1千の医療機関を対象にした医療事故情報の収集事業で報告された事例を分析した。患者自身が誤ったケースは除外した。報告書によると、24件の内訳は注射薬10件、内服薬6件、外用薬5件、その他3件だった。注射薬では薬剤を入れたガラスの容器(アンプル)の形が似ていたのが7件、内服薬では包装の外観が似ていたのが5件と目立った。取り違えが起きた場面は注射薬では9件が薬剤の準備中で、主にかかわっていたのは助産師・看護師が6件、医師が3件。内服薬は6件すべてが調剤中で、いずれも薬剤師がかかわっていた。24件のうち23件は患者に使われた。死亡例はなかったが、障害が残った可能性がある事例が3件あった。新たな治療が必要になった事例は11件だった。製薬業界はアンプルや内服薬の包装、外用薬の容器などにバーコードを表示する取り組みをしており、機構は、バーコードを薬剤の照合に使うことも医療機関に求めている。

発行元

無料体験マッサージ、いつでもお気軽にどうぞ
【医療保険適応 訪問マッサージ・はりきゅう】